

はじめに

私たちの暮らす鳥取県は、4市14町1村で人口約60万人の小さな県ですが、ボランティア参加率が高く、ご近所同士の助け合いの精神の伝統が根づいた県です。しかし一方で、高齢化率が高く、2010（平成22）年に行われた国勢調査では、高齢化率26.3%（全国第13位）となっています。特に中山間地域では、その傾向が顕著で高齢化率が40%を超える町も複数あり、深刻な状況となっています。

昨今、全国的に核家族化や個人主義の浸透により地域社会や家族の絆は弱まってきています。また、単身高齢者や夫婦のみの高齢者世帯が増加するとともに、認知症高齢者や障がい者も増加傾向にあるなど福祉課題は大きく変化し、福祉ニーズも複雑・多様化してきており、支援を必要としている人をどのように適切な福祉サービスに繋げていくかが緊急の課題といえます。本県においてもその例外ではなく、小地域の中での支え合いの仕組みづくりが急がれます。

「ほっとプラン2013」では、本県を取り巻く福祉の現状と課題を認識することにより、これからの福祉の方向性を整理し、鳥取県社会福祉協議会が目指すべき目標を掲げました。

鳥取県社会福祉協議会は、どのような使命・役割を担い、その機能を最大限発揮していくための道標を「明日の県社協を考える会（委員長：村上俊夫氏）」で検証しました。

そして、5つの重点目標として、①新たな地域福祉の展開、②福祉教育・ボランティア活動の推進、③セーフティネット機能の強化（権利擁護体制の整備と日常生活の自立支援）、④福祉人材の養成・確保、⑤職員の専門性の向上と事務局体制の強化一を設定し、その推進戦略を定めて邁進していくこととしています。

地域福祉を推進するためには、市町村社会福祉協議会を始めとする地域福祉を推進する様々な関係機関、自治体、福祉団体、民生委員・児童委員、ボランティアの方々との連携・協働が不可欠です。

誰もが安心して暮らせる福祉社会の実現に向けて、関係各位のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「ほっとプラン2013」の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました村上俊夫委員長を始め、「明日の県社協を考える会」の委員の皆様には厚くお礼を申し上げます。

平成25年3月

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会
会 長 内 海 敏